

令和6年度

「心豊かで 次代に輝く 芽室の人」を地域全体で育みます！

芽室町コミュニティ・スクール(CS)

～「郷育・夢育」を軸とした地域とともにある学校づくり&学校を核とした地域づくり～



◆子どもたちにとっては

- 学びのフィールドが地域にも広がり、多様な体験や学びを通して、ふるさと「めむろ」の良さを実感できます。
- 多くの人と関わることで、夢の実現に挑戦する気持ちを高めることができます。
- 未来社会の創り手としての自覚が高まります。

学校運営協議会



未来を担う子どもたちの成長を支えるための「熟議」から生まれた活動



◆教職員にとっては

- 地域住民の理解と協力を得た学校運営が実現します。
- 地域住民の協力により、教育活動の充実や子どもと向き合う時間の確保にもつながります。
- 教育活動の幅が広がり、質も高まります。



中学校での郷育講話：手島町長

地域人材による食農体験学習「ポップコーンの植え付け」(芽小)



学校運営協議会が核となった上美生総合防災訓練(上小・中)



芽室町商店会会員を講師に「まちなか活性化学習」(芽中)



芽室町

先手あいさつ運動



中学校での夢育講話：程野教育長



ゲートボール協会役員を講師に芽室町発祥のゲートボール体験(芽西中)



学校支援ボランティアが「版画学習」のお手伝い(芽西小)



地域人材を講師に「郷土愛」を育む「語る」南小スタイル(芽南小)

◆保護者にとっては

- 地域全体で子どもたちが育てられているという安心感につながります。
- 保護者や地域住民とのよりよい人間関係が構築できます。
- 学校や「ふるさと芽室」に対する理解が深まります。

学校運営協議会の活動を **カタチ** にする

「めむろ郷育・夢育応援団本部」(学校支援ボランティア)
～地域学校協働活動～

芽室町教育委員会

◆地域の皆さんにとっては

- 学校を通して多くの人と交流することができ、子どもや学校の役に立っているという充実感につながります。
- 学校と連携・協働して子どもたちを育てることにより、持続可能な活力に満ちた地域づくりに貢献できます。

◇芽室町コミュニティ・スクール(CS)の目指す姿

芽室町では、令和元年度より町内小・中学校7校に法的な権限と責任を有する「学校運営協議会」と、その熟議から生まれた教育的ニーズを支援する「めむろ郷育・夢育応援団本部」を両輪とし、「地域とともにある学校づくり」への転換を図るコミュニティ・スクール(CS)の取組を進めています。

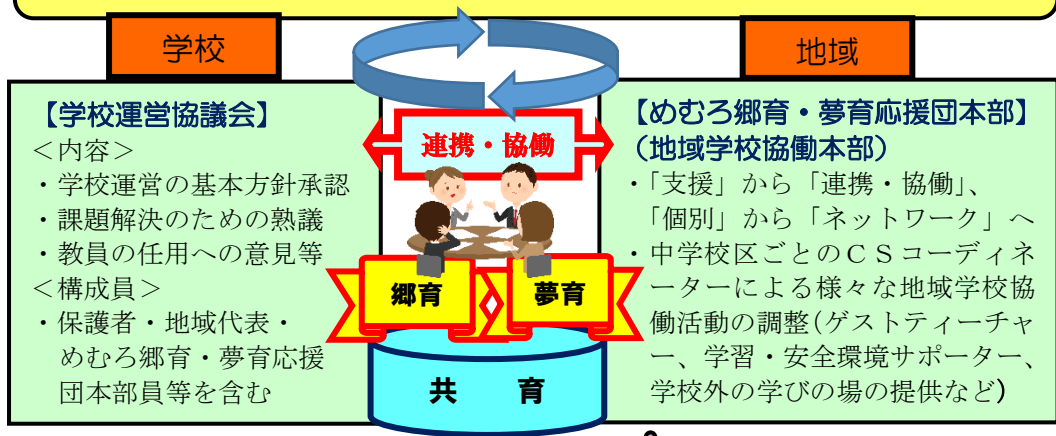
本町のCSは、学校と地域が目標を共有する「社会に開かれた教育課程」を基軸として、「郷育・夢育」をキーワードに地域住民の学校運営への積極的な参画による「共育」を重視し、義務教育9年間の子どもの健やかな成長を支援するための連携・協働を通して、子どもと学校、そして、地域を元気にする取組です。

<CSの重要な機能>

- ①目指す子ども像の共有と熟議を生かした地域住民の「学校運営への参画」
- ②「めむろ郷育・夢育応援団員(ボランティア)」による「教育活動への参画」

◇芽室町コミュニティ・スクール(CS)の基本型

- | | | |
|-------|-------------|-------------------|
| 教育委員会 | ◆学校運営協議会の設置 | ◆めむろ郷育・夢育応援団本部の設置 |
| | ◆委員の任命 | ◆学校支援ボランティア活動の実施 |



令和5年度 CSに関する成果と課題



地域とともにある学校づくり



- CSに関するQ&A
- Q1: コミュニティ・スクール(CS)のねらいは何ですか?
 A1: 学校、保護者、地域住民等が、当事者意識をもって連携・協働し、地域の未来を担う子どもたちの成長を支えていくことです。保護者や地域住民等と学校が「顔の見える」関係となり、学校の地域における存在意義も高まります。
- Q2: CSにより、どんな効果が期待できますか?
 A2: 保護者や地域住民等が学校運営や教育活動に積極的に参画することにより、子どもたちの学びや体験が充実し、大人の自己有用感も高まるとともに、人と人とのつながりも深まり、地域の活性化を通して持続可能な町づくりにもつながります。
- Q3: 「芽室町先手あいさつ運動」のねらいは何ですか?
 A3: 地域の宝である子どもたちを中心としたあいさつ運動であり、誰もが「明るく爽やかな町」「住みやすい町」と思える町にすることをねらいとしています。この運動は、地域の防犯にもつながると考えています。

- 「15の春」の目指す姿の実現に向けた熟議を通して、学校課題と地域課題を共有し、課題解決に向けた取組を進めることにより、未来を担う子どもたちの成長を支える体制が整ってきている。
- 「郷育・夢育」を軸とした探究・提案・発信型の「めむろ未来学」等を通して、子どもたちの発想や願いを実現するための地域人材の活用により、郷土愛や夢への挑戦心・自己肯定感の醸成につながっている。
- 全学校運営協議会の連携・協働による「芽室町先手あいさつ運動」を推進することにより、子どもたちの健やかな成長を支える全時的な機運が醸成されつつある。
- 学校運営協議会の熟議を、更に子どもたちのより良い成長のために何が出来るか、何が必要かなど、課題解決のための方策を重視した内容に充実させる中で、CSコーディネーターや「めむろ郷育・夢育応援団本部」との連携・協働を深める必要がある。
- 確かな学力や体力の向上、及びいじめ、不登校等の課題についての熟議を深め、学校、家庭、地域住民等が当事者意識をもって連携・協働し、解決を図る具体的な取組が必要である。
- CSの意義や活動の周知を図り、学びのフィールドを学校から地域により一層広げるために、地域学校協働活動を支える「めむろ郷育・夢育応援団員」(学校支援ボランティア)を着実に増やし、子どもと学校、そして、地域を元気にする取組を工夫する必要がある。

